

## 2011/5/25 の質問への回答

・ 常住市町村外への通勤通学者の割合は、おおむね同心円状の構造になっているが、例外的な市町村があるのはどうしてか？

→ 北部の能勢町については、町外への交通の便があまりよくないからではないか。南部については、臨海部に工業地域や関西空港など大きな事業所があるからではないか。

・ 北部の市町村では京都や兵庫に、南東部の市町村では奈良県に通勤通学しているのか？

→ 近隣の市町村に通勤通学している人が多いので、府県境付近の市町村では、隣接する県への通勤通学者も多いが、大阪府内の市町村よりも他県の市町村への通勤通学者の方が多いと言うことはない。詳しくは、総務省統計局の国勢調査の HP でデータを閲覧でき、また、夏ごろまでには大阪府内の全市町村の通勤通学先を表す地図を私の HP で公開する予定である。

・ どうして中央部に人口が集中しているのか？

→ 大阪府は中央部に平野が広がり、周縁部に山地があるため、中央の平野に市街地が広がった。

・ 市町村はどのように区別されているのか？

→ 人口、産業、役所の機能などによって区別されている。

・ どこで東西南北に分けたらよいのか？

→ どこで、という決まりはないので、誰が見ても理解しやすい目印を見つけてそこからの位置関係を表すと説明がしやすい。

・ このような集計にはどのくらいの時間がかかるのか？

→ やり方とやる人によって大きく変わるが、すでにエクセルのデータとして公表されているもので、それほど複雑な計算や整理をしなくてもいい場合は、ある程度表計算ソフトに慣れた人であれば、集計作業だけであれば 1 時間程度でできる。

・ 大阪府では常住市町村外への通勤通学者の割合が高いが他の都道府県ではどうなのか？

→ 前回説明したように、大阪府のように常住市町村外への通勤通学者の割合が高い地域は、近畿圏、首都圏、中京圏と政令指定都市周辺のみに限られる。

・ この地図から市町村の繁栄度が分かると思うが、ほかには何が分かるのか？

→ この地図から繁栄度は分からないように思う。通勤通学距離が長いほど繁栄しているわけでもないし短いほど繁栄しているわけでもない。この地図は大阪府内の人の異動の様子を通勤通学と言う面から見たものに過ぎない。

・ 階級区分図の配色は赤～緑がよいとのことであったが、赤緑色覚異常者には判別できないので緑よりも青のほうがよいのではないか？

→ そのとおりのように思う。これからよく考えてみる。

・ 人口密度が違うので、この地図からは帰宅難民が多いかどうかは分からないのではないか？

→ この地図からは、帰宅難民が多いか少ないかは分からない。それを知るには通勤通学者数の図形表現図が必要である。この地図からは、たとえば、ある市町村の小学校の教員になったとして、担任をしているクラスの児童の何割くらいの親が遠くまで働きに出ているかを大雑把に予想することができる。